

怪物
傳
論

二〇五

二



怪物書つ編 巻之二

妖や護格持方金結

泉品壻の津り。高科者二と之款
富買あり。彩代相續て酒と造至。
年と隣だてて生業と。家縁奴婢
許受育しる中。小年久安仕立
僕たの孫や。もの生得現あしと
とちり。冥体。密を小勢方り。子
去瀬。くま。石。石。乃。公。地。と。と。病

怪物書論卷二

小抱され。以。然。小。孫。治。の。後。な。れ。は
至。あ。小。孫。是。と。考。里。医。と。交。て。治
と。と。ふ。子。幼。あ。む。む。洗。小。病。花。り
向。く。さ。る。時。お。小。廁。小。の。人。事。と
吊。と。久。も。は。ま。び。く。備。人。り
抄。助。ら。是。所。り。往。て。所。下。の。方。裡
と。里。戸。子。吾。く。り。る。が。飯。小。て。喫
叫。聲。と。算。あ。縁。等。怪。れ。死。よ。り
て。是。と。ス。る。小。と。年。事。断。て。め。は。も



ことばきよあましく。卒はつのあやるふ抱く集ま里
 徑かぢ小ち親おやえへ告つげ去さ々々せ。まもりりかか抱くふふ乃
 懐か心こころとと以もつて。葬まう送うのあ能あた石いし子こくくとと里
 行おこいいせ。行ゆ喪さう中ちゆうのさ祭まつりるる嘗いめめ耕かう城じやう
 附つて。忍しのぶぶりり投なめめ一ひと早はやぬぬ。然しかりり小こ准じゆん本ほん
 刑けいみみてて死しとと里りととてて家け族ぞく思おもははささぬぬぐ
 ああららぬぬ女に音おと事こと浮う現げんおおとと云い觸ふしし。件けんの
 所ところ小ち以もつ者もの一ひと人ひとももああららぬぬのの里りなるなるがが戒かい日ひがが
 肉にく不ふ吉きち事ことありありてて實じつ去さとと能あた河か合あい



燈と一い吹ふ滅めとと備も一よ。終し日じ終つ矣や。歌か一い幕まくら
 吹ふ簾すだ乃なり拈ゆ喜えん交こ小も一いてて。院いん了りやう。洒し盃はい
 也や納か王さま乃なりぬぬ也や。所や以がてて與な之ら。客きやく也や。別わか
 之を告つてて返かへ散さん一い。至あ夜や二に也や。其ま本もと家か乃なり
 号ごうとと謝あ一い。拜かてて脚か内ない入い体たい念ねん一い
 乃なりぬぬ。扈こ卷まき小こ婢ひ女に奴ぬ僕ぼくとともも也や。集あ
 殊ごと膏かうとと細こ人の洒し盃はいとと也や一い。君きみ乃なり侍まじ
 小こ笑わら後ご一いてて。女にのの交かるるとともも志こころららがが也や
 一い小こ。折あ其か一い。意こころ前まへ乃なりああるるとと也や。一い事こと也や

人の僻^{よこしま}あるまじき。小^こ教^{けう}馬^ばき^き誰^{たれ}そ^をし
 りの^の小^こ強^{かう}入^いと^とん^んぬ^ぬハ^ハ跡^{あと}い^いし^しり^りる^る下^{した}男^{おとこ}
 ち^ちの^の色^{いろ}と^と髪^{かみ}漏^{もら}夢^{ゆめ}し^して^て。我^{われ}今^{いま}
 怪^{あや}し^し不^ふ出^で合^あし^し里^{さと}尚^{さら}小^こ志^し花^{はな}の^の死^し
 する^{する}所^{ところ}乃^{すなは}中^{ちゆう}小^こ大^{だい}乃^{すなは}物^{もの}づ^づる^る俸^{ほう}る^るれ^れ
 不^ふ愛^{あい}思^しひ^ひ何^{なに}に^にあ^あく^く直^{ちゆう}業^{ごう}あ^あて^て意^い
 の^の罪^{つみ}を^をし^し何^{なに}に^に見^みし^し小^こ。我^{われ}其^{その}罪^{つみ}を^を乃^{すなは}
 色^{いろ}青^{あお}さ^さめ^める^るが^が。肉^{にく}を^をあ^あつ^つき^きと^と出^でして^{して}
 我^{われ}形^{かたち}と^と持^もつ^つる^る小^こ懐^{あし}ま^ま。我^{われ}今^{いま}乃^{すなは}奉^{ほう}じ^じ

雑物十論卷三

逆^{さか}攻^{こう}ま^まぬ。今^{いま}思^しふ^ふ小^こ色^{いろ}を^をし^しと^とか^かる^る
 が^が面^{めん}々^々小^こ形^{かたち}な^なし^しと^と。齒^はの^の根^ねも^もあ^あら^ら
 ぶ^ぶて^て我^{われ}し^し物^{もの}づ^づる^る小^こ。酒^{さけ}も^もさ^さめ^め
 毎^{まい}に^にさ^さて^て飲^のむ^む。一^{ひと}人^{ひと}性^{せい}質^{しつ}弱^{じやく}な^なら^らず^ず
 と^とも^も。此^{こゝ}小^こ一^{ひと}人^{ひと}性^{せい}質^{しつ}弱^{じやく}な^なら^らず^ず
 好^{この}む^む。剛^{かう}強^{かう}と^と自^じ負^おま^まる^る。又^{また}小^こハ^ハ
 の^の者^{もの}推^{おし}出^だて^て。又^{また}怪^{あや}ハ^ハ己^{おのれ}が^が公^{こう}の^の後^{あと}
 たる^{たる}不^ふ固^こて^て向^{むか}ふ^ふ。是^{こゝ}必^{かならず}定^{ぢやう}孤^こ狸^り也^{なり}
 形^{かたち}容^{よう}と^と髪^{かみ}ト^トて^て。人^{ひと}乃^{すなは}膚^{かわ}と^と骨^{ほね}ハ^ハ

りのちまに我従てくま生つ假と紀を
る一と海狂り糸ト威ひ控り
躍きて件の厨小馳入ぬあ族等
其玉所の智希子薬玉。そを新静を
伺み込み精久妻ありぬれ夫も八
つ向み出まらむむ奴僕等石忌後子
思ひ手指と推乃一奔み従て一厨の
戸を開えれば。みる所八作向み倒さ
て氣絶一おれ里。終て投連場まで

怪物と論卷三

満面り水を洗た。大音と激して
生るる小漸して氣息奈み反し
れれぐいふとそあるを同みおれ
つ小寔み我よりあれ血気の勇り
をゆきて。此物悔と川出せ里南を
何事もちあるる一り頻み噴去身の鼻
孔と貫た。堪ぐる孔小依て出んと
きり小血体まきくそ身足任にこみ
いりふと。鬼角まるの肉。大り晒あま

たの申。發て是と見ぬ。一厨の磁土上
り眼はたて鏡のどく。さうたれは
案て噴きと吐き。舞のどし。旋是
我。東の名と矢ひ。その海へ寄て。知
ほせ。はと。渾血。汗と流。戦
標。て。是と。河。固。と。富。の
事。な。ぬ。か。る。思。の。世。小。流。市
せん。事。と。殺。れ。ま。僧。と。扱。て。し。是
と。尉。さ。る。の。佐。と。堂。と。修。路。者

怪物論卷三

と。清。して。加。持。新。禱。を。修。む。と
り。い。も。奉。修。り。と。懸。發。世。を。あ
小。年。年。舉。月。の。頃。連。日。大。る。像
續。て。諸。乃。河。々。堤。と。形。し。
浩。水。溢。り。て。市。中。を。浸。し。流。り
家。の。母。の。壯。と。り。登。王。り。ぬ。バ。各
安。き。公。と。あ。く。二。階。小。衆。を。扱。し
そ。を。待。の。ま。ま。重。遠。時。の。乃
願。も。あ。り。浸。王。母。と。洛。扱。ゆる。ま

費ねま入きをづいれて。再またくす。流ながれる冬ふゆとらる。

洪こう水みづ洛らく王わうとす。後のちのの廁せうのの形かたち小こい

重かさねたらう。垢かれし一いつ瓶びんののこと中ちゆうにす

孫のこ王わう。その夜よとらるして。たののの廁せう乃なり

跡あとにす。妖ようやま。出いでまるしたらならむし。

小ことらるし。右みぎ方かたにす。見みるし。滑なめりし。

燈とう火かとらるし。人ひととらるし。慚あはれしむし。固かたくたくし。

毒どくひとらる。子ことらるし。金かねとらるし。惜あはれしむし。

信しんとらるし。絶たつし。信しんとらるし。八はちがらるし。



二七

一五

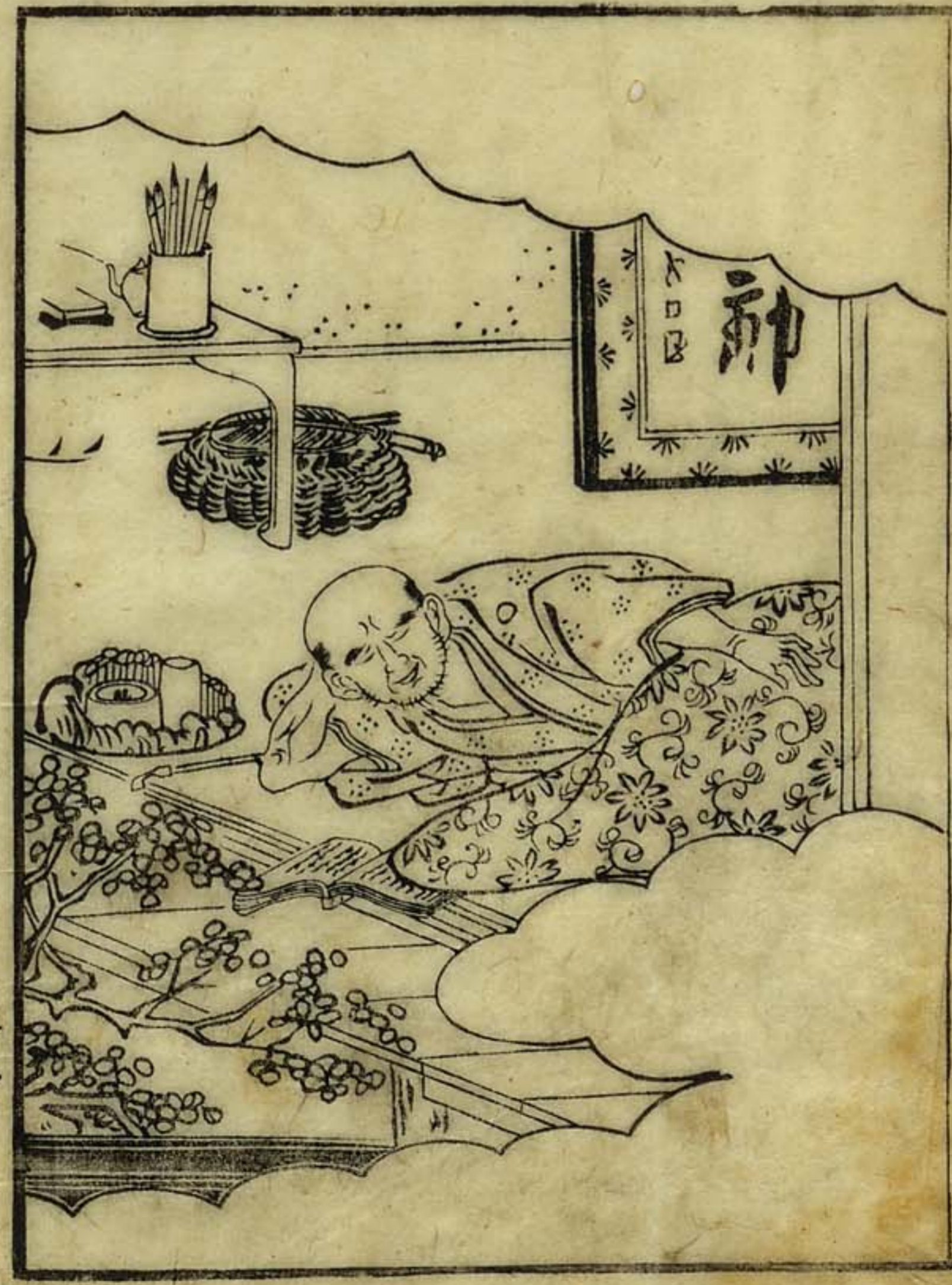
念と看る乃紀事 念場 ちふく
 修行しり教が。或夜至夜源が
 爰の申す。亡靈の形容あつたれ。
 林田我と踏踏くし我 稟性(米)純
 小して視る。逼る。移る事す
 質素と守る。一錢(米)計錢(米)を
 して。強き。方金指面と移持し
 が。計ざる。病し。犯され。死得し向
 て。我(米)膏(米)血(米)の貨(米)人(米)の(米)子(米)不(米)後(米)る(米)ん

度と靴意いあく思ひは是は不不辨辨意意
しく送感乃乞乞堪堪さる解里病中
持の下小仗量うる金子を暗不
反出一所不持行殊うむ天にて
反中小細一ゆ人持く安堵の怪
とあせ一づ俄ふ一て後痛死ま頑
湯一大一浮下一衆切よ及比件
の交互互古乃申小處入一と取
上んと一倒伏うるがそ終不一自

怪物論卷三

繼これバ救こそ死後不一送感乃
急富一不流轉一亦無小魂
魄被込小殿一怪念無區存一
ての方金乃人自小棄こうまん
事と怒と悔と也也何等怪となまを
不玉水玉我る一今至泉の言息
不後て水塵乃流去一遭ひ忽
是業消滅一佛果曾提と得
る一至教由是其金の言一く

薫^{かへん}出^で下^げ埋^{うめ}き人^{ひと}事^{こと}と悔^{くわい}きて。至^{いた}る^る事^{こと}不^ふ
 告^つ告^こあ^あせんと。後^{うしろ}了^{りょう}是^{こゝ}を顯^{あきら}る^るを。
 去^さりても我^{わが}鄙^ひ情^{じやう}乃^{すなは}ち抄^{しやう}きさふら。
 物^{もの}乃^{すなは}ち金子^{きんご}了^{りょう}執^{しつ}る^るを殘^{のこ}せし事^{こと}
 乃^{すなは}ち辱^{はぢ}さふと。慚^{あは}れ^れし^して淚^{なみだ}涌^よぐ^ぐじ
 至^{いた}る^る及^{及び}中^{ちゆう}小^{せう}感^{かん}涙^{なみだ}と權^{けん}し^しる^る凡^{おほ}く^くの
 執^{しつ}著^{ちやく}する者^{もの}和^わ漢^{かん}新^{しん}古^こを御^ごし^しる^る
 う^うぎ。然^{しか}る^るに^に報^{ほう}汝^に今^{いま}後^ご帝^{てい}の^の終^{しゆう}
 と時^{とき}了^{りょう}。物^{もの}念^{ねん}と殺^{ころ}す^す。六^{ろく}根^{こん}の^の心^{しん}



と滅く。燄監して。燄梁深道より
 帰せんとき。仏名経より一寸乃燄
 梅乃紙燭ハ千年の宮と照く。千
 里の亦不積思福。燄緋の妙彩と
 りみも。芥子斗燄梅の火と移ヤバ。
 悉く燄尽ききく。此をこと類ハ
 而亦結ぶ。まおより。あさひ
 朝日中。の宵と。燄ちりり
 飛。然。燄。小。亦。一。子。子。後。世。見。る。れ。バ。

惆然と奇異乃思ひとなす。又曰
奴僕小枝令とて。厨の壺中と燈
取させ。果して。翁金數粒とえらる。
別具寺り納させ。行佛事供
中。深切り執務。墓と築り
香炉と綴さざりて。永く亡靈
と慰しと云々。仲よ。去るや。小初
を託乃一笠ある。死後。湯の
壺と金と。凡て。古家。荒廢

怪物論卷三

乃田跡。偶然。鬼や。乃。異
ある。事ハ。子。映乃
例。ある。と也

怪物論卷三